



PMC アプリケーション ログの 使用

この章では、PMC アプリケーション ログの使用方法について説明します。また、ログ ファイルごとにロギングの有効化と無効化を切り替える方法、およびデバッグ ログのレベルを設定する方法についても説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [PMC ログの特定 \(P.7-2\)](#)
- [PMC ログへのアクセス \(P.7-4\)](#)
- [PMC ログの使用方法 \(P.7-7\)](#)

PMC ログの特定

この項では、PMC ログ ファイルの概要と、Logs サブメニュー項目へアクセスする方法について説明します。次の項を扱います。

- [PMC ログ ファイルの管理 \(P.7-2\)](#)
- [Logs サブメニュー項目へのアクセス \(P.7-3\)](#)

PMC ログ ファイルの管理

PMC は、次のログ ファイルとデバッグ ログを維持します。これらは、トラブルシューティング作業に役立ちます。

- Authentication.log
- ChannelActivity.log
- ChannelStatistics.log
- UserInterface.log
- DebugLog.txt



注意

これらのログ ファイルへのロギングは、PMC の問題を隔離し解決する必要がある、システム管理者またはシスコのサポート担当者から指示があった場合に限り、オンにしてください。システムの整合性を確保するため、これらのログのいずれかを使用する場合は、事前にシステム管理者に連絡してください。

Cisco IPICS システムでは、PMC のオプション設定メニューを使用して、個々の PMC ログ ファイルのロギングをオンまたはオフにしたり、デバッグ ログのレベルを設定したりできます。ロギングはデフォルトではオフになっています。

Logs サブメニュー項目へのアクセス

PMC のオプション設定メニューを使用して PMC Logs サブメニュー項目にアクセスできます。

PMC オプション設定メニューにアクセスするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 デスクトップに表示される PMC ウィンドウの上にカーソルを合せます。

ステップ 2 左側の **Shift** キーを押しながら PMC ウィンドウ内の任意の場所で右クリックします。

ステップ 3 **Logs** をクリックします。

Logs サブメニュー項目のリストが表示されます。

ステップ 4 ロギング機能のオン/オフを切り替えるログに移動します。

ロギングのオン/オフを切り替える方法および個々のログファイルにアクセスする方法については、[P.7-4](#) の「手順」を参照してください。

各 PMC ログの説明については、[P.7-7](#) の「PMC ログの使用方法」を参照してください。

PMC ログへのアクセス

PMC の Logs サブメニューから、表示されている PMC ログ ファイルへのロギングをオンまたはオフにするかを選択したり、デバッグ ログを設定またはクリアしたりすることができます。



注意

すべてのデバッグ オプションを設定すると、システムで収集および生成される情報量が膨大になるため、デバッグ ロギングは、特定の問題を切り分ける場合に限って使用することをお勧めします。デバッグ作業が完了したら、必ず、デバッグ ログをクリアしてデバッグ ロギングをオフにしてください。

個々のログのロギングをオンまたはオフにしたり、デバッグ ログを設定またはクリアしたりするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [P.5-19 の「オプションの設定メニューの使用方法」](#)で説明したとおり、PMC のオプション設定メニューにアクセスします。
- ステップ 2** **Logs** をクリックしてログのサブメニュー項目にアクセスします。
- ステップ 3** ログ ファイルのロギングをオンにするには、特定のログ名をクリックします。

ロギング機能がオンになっていることを示すチェック マークがログ名の横に表示されます。



(注)

すべてのログ ファイルのロギングをオンにするか、個別のログ ファイルのみをオンにするかを選択できます。

- ステップ 4** デバッグ ログを設定するには、Logs メニューで **Debug > Set All** を選択します。

Debug サブメニューにリストされるすべてのオプションの横に、設定済みであることを示すチェック マークが表示されます。



(注) シスコでは、トラブルシューティング作業に使用する必要のある特定のデバッグ オプションだけを設定することを推奨しています。このように設定すると、デバッグ ログが消費するハードディスク容量を最小限に抑えることができます。設定するデバッグ オプションを選択するには、オンにする個々のオプションをそれぞれクリックします。別の方法として、Cisco IPICS サーバでこれらのデバッグ オプションを設定することもできます。デバッグ オプションの中には、少なくとも1つの PMC チャンネルがアクティブ化されていないと使用できないものがあります。

ステップ 5 ログ ファイルのロギングをオフにするには、特定のログ名をクリックします。

ログ名の横のチェック マークが非表示となり、ロギングがオフであることが示されます。

ステップ 6 デバッグ設定をオフにするには、Logs メニューで **Debug > Clear All** を選択します。

デバッグ ログ オプションの横のチェック マークが非表示になり、オプションがクリアされたことが示されます。

また、クリアする個々のオプションをそれぞれクリックして、特定のデバッグ オプションだけをクリアすることもできます。

ステップ 7 サーバのログ設定を上書きするには、**Override Server Log Settings** をクリックします。

上書きオプションが有効であることを示すチェック マークがこの設定の横に表示されます。このオプションを有効にすると、PMC は、ログおよびデバッグ ログの設定値を変更するすべてのサーバ要求を無視します。

上書きオプションを無効にするには、**Override Server Log Settings** を再びオフに切り替えます。オプションの横のチェック マークが非表示となり、オプションがオフであることが示されます。



(注) シスコでは、システム管理者またはシスコのサポート担当者から指示された場合に限り、この上書きの設定を有効にすることを推奨しています。

**ヒント**

PMC でインストール アクティビティ (インストール、アップグレード、修復など) が実行されると、システムがデバッグ ログ設定をリセットする場合があります。デバッグ ログ設定を調べて、必要なオプションが有効になっていることを確認してください。PMC のインストールおよびアップグレードする方法の詳細については、[第 2 章「PMC アプリケーションのインストールおよびアップグレード」](#)を参照してください。

**(注)**

PMC がいずれかのログ ファイル (*.log または DebugLog.txt) および録音ファイル (User recording ディレクトリの *.raw) に書き込みを行うと、アプリケーションはこのデータを取り込むために使用可能なディスク領域があることを確認します。空きディスク領域が事前に定義されたレベルを下回っている場合は、ロギングと録音のアクティビティは停止し、ディスクに書き込むことができない残りのデータは失われます。空きディスク領域が十分なレベルにまで増えると、PMC はロギングと録音のアクティビティを自動的に再開します。

PMC ログの使用方法

PMC アプリケーションは、Authentication ログ以外のすべてのログ ファイルを、PMC クライアント マシンの次のディレクトリに保存します。

C:\Program Files\Cisco Systems\Cisco IPICS\PMC\Users*<username>*\Logs

<username> は、現在アプリケーションにログインしている PMC ユーザの名前です。

PMC アプリケーションは PMC クライアント マシンの次のディレクトリに Authentication.Log ファイルを保存します。

C:\Program Files\Cisco Systems\Cisco IPICS\PMC\Components\Logs



(注)

ChannelActivity.log、ChannelStatistics.log、UserInterface.log、および DebugLog.txt ファイルは、すべてユーザ固有です。Authentication.log はユーザ固有ではなく、PMC のインストールに基づいたすべてのユーザに関する情報が含まれています。詳細については、[P.7-9 の「PMC ログの説明」](#)を参照してください。

PMC は、Cisco IPICS サーバと接続していない場合には、PMC のサービサビリティを有効にするためにすべてのログ ファイルとデバッグ ファイルを Logs フォルダに保存します。

ここでは、次の項を扱います。

- [PMC ログ ファイルに関する注意事項 \(P.7-8\)](#)
- [PMC ログの説明 \(P.7-9\)](#)

PMC ログ ファイルに関する注意事項

次の注意事項は、PMC ログ ファイルに適用されます。

- デバッグ ログを除くすべてのログ ファイルはサイズを基準にしています。つまり、システムは事前に定義された制限に達すると新しいログを作成しません。
- ロギング機能を使用するには、Cisco IPICS が使用できる十分な空きディスク領域が PMC クライアントマシン上に存在する必要があります。つまり、PMC は 100 MB しか空きディスク領域がないことを検出すると、ユーザに通知する警告メッセージを表示します。さらに、空きディスク領域が 50 MB しかないことを検出した場合は、ログ ファイルへのデータのロギングを停止します。
- デバッグ ログ (DebugLog.txt) ファイルは、PMC を起動するたびに新たにロギングを開始します。このアクティビティが発生すると、システムは DebugLog.txt に含まれていた情報を DebugLog_archive.txt に移動します。
- デフォルトでは、Cisco IPICS システムは、デバッグ ログの現在アクティブなコピー (DebugLog.txt) とアーカイブ コピー (DebugLog_archive.txt) を 1 つずつ保持します。
- デフォルトでは、Cisco IPICS システムはすべてのエラー メッセージをデバッグ ログに書き込みます。
- PMC は、ログ ファイルのタイプごとに、管理するログ ファイルとデバッグ ファイルの数を指定します。
- Cisco IPICS サーバは、事前に定義された間隔でログ ファイルを PMC から取得できます (サーバは、オンデマンドで任意のログ ファイルをアップロードするように PMC に要求することもできます)。
- また、ファイル サイズのロールオーバーに基づいて、新しいログ ファイルが作成された時点で、PMC からログ ファイルがアップロードされるように要求することもできます。
- PMC の Channels メニューで **Optimize for low bandwidth** チェックボックスをオンにしている場合は、PMC は帯域幅を節約するためにログをサーバにアップロードしません。
 - このアクティビティが発生すると、システムは、アーカイブ コピーであることがわかるようにアップロードされたログ ファイルの名前を変更します。たとえば、サーバが UserInterface.log ファイルのログ ファイルのアップロードを要求すると、これが最初のアーカイブ コピーであることがわかるように、ファイル名を UserInterface.1 に変更します。

- サーバからの複数のアップロード要求を考慮して、複数のログ アーカイブが維持されている場合があります。
- すべてのアーカイブ ファイルは、サーバにアップロードされた後、自動的に削除されます。
- サーバがロールオーバーに基づくログ ファイルのアップロードを要求しない場合は、システムはこれらのアーカイブ ログ ファイルを作成しません。
- すべてのログは、Greenwich Mean Time (GMT; グリニッジ標準時) で表示されます。
- DebugLog.txt はテキスト形式で表示されます。
- Authentication.log、ChannelActivity.log、ChannelStatistics.log、および UserInterface.log は XML 形式で表示されます。Cisco IPICS サーバはこれらのログ ファイルを解析した後、syslog 形式に変換し、syslog メッセージをルータに送信します。syslog メッセージはルータで収集されます。

PMC ログの説明

この項では、各 PMC ログ ファイルについて説明します。また、それぞれの形式例も示します。



(注)

PMC はすべてのログ エントリに GMT 形式のタイムスタンプを付けますが、それぞれのクロックをいずれかの中央のクロック ソースに同期化するわけではありません。そのため、シスコでは、Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) または別の同様の方法を使用して、PMC クライアントマシンと Cisco IPICS サーバのクロックを中央のクロック ソースと同期することを推奨しています。

表 7-1 で、各 PMC ログ ファイルについて説明します。

表 7-1 PMC ログ ファイルの説明

PMC ログ ファイル名	PMC ログ ファイルの説明
Authentication.log	このログ ファイルには、PMC インストールごとに、すべてのユーザ ログイン試行とユーザ ログアウト試行の履歴が含まれます。このログは XML 形式で表示されます。
ChannelActivity.log	このログには PMC 内の各チャネルのアクティブ化および非アクティブ化の履歴と、PTT ステータスが含まれます。このログは XML 形式で表示されます。
ChannelStatistics.log	このログには、事前に定義された間隔で定期的に、各チャネルの統計情報が記録されます。統計情報には、ネットワーク経由で伝送された送信データと受信データに関する情報などが含まれます。このログは XML 形式で表示されます。
UserInterface.log	このログには PMC アプリケーションとのユーザ インタラクションの履歴が含まれます。このログは XML 形式で表示されます。
DebugLog.txt	このログには PMC の動作方法に関する詳細なデバッグ情報が含まれます。複数の異なるデバッグ レベルを有効化できます。このログはテキスト形式で表示され、PMC アプリケーションを実行するたびに新たなロギングが開始されます。

次に、各ログ ファイルの形式例とファイルに含まれる情報のタイプを示します。

Authentication.log

```
<log-msg><time>Thu Jun 09 16:16:44
2005</time><facility>AUTH</facility><msg-id>SUCCESS</msg-id><args><arg
id="0">user1</arg></args></log-msg>
<log-msg><time>Thu Jun 09 18:52:34
2005</time><facility>AUTH</facility><msg-id>FAILURE</msg-id><args><arg
id="0">user2</arg></args></log-msg>
<log-msg><time>Thu Jun 09 18:52:37
2005</time><facility>AUTH</facility><msg-id>FAILURE</msg-id><args><arg
id="0">user1</arg></args></log-msg>
<log-msg><time>Thu Jun 09 18:52:38
2005</time><facility>AUTH</facility><msg-id>FAILURE</msg-id><args><arg
id="0">user1</arg></args></log-msg>
<log-msg><time>Thu Jun 09 18:52:40
2005</time><facility>AUTH</facility><msg-id>SUCCESS</msg-id><args><arg
id="0">user1</arg></args></log-msg>
```

ChannelActivity.log

```
<log-msg><time>Wed, 06 Apr 2005 17:33:41
GMT</time><facility>CHANNEL</facility><msg-id>Activate</msg-id><args><
arg id="0">LINE1</arg></args></log-msg>
<log-msg><time>Wed, 06 Apr 2005 17:34:28
GMT</time><facility>CHANNEL</facility><msg-id>Deactivate</msg-id><args>
<arg id="0">LINE1</arg></args></log-msg>
```

ChannelStatistics.log

```
<log-msg><time>Wed, 06 Apr 2005 22:02:12
GMT</time><facility>STATS</facility><msg-id></msg-id><args><arg
id="0">Sent Packets</arg><arg id="1">0</arg><arg id="2">Sent
Bytes</arg><arg id="3">0</arg><arg id="4">Rcvd Packets</arg><arg
id="5">0</arg><arg id="6">Rcvd Bytes</arg><arg
id="7">0</arg></args></log-msg>

<log-msg><time>Wed, 06 Apr 2005 22:03:13
GMT</time><facility>STATS</facility><msg-id></msg-id><args><arg
id="0">Sent Packets</arg><arg id="1">0</arg><arg id="2">Sent
Bytes</arg><arg id="3">0</arg><arg id="4">Rcvd Packets</arg><arg
id="5">0</arg><arg id="6">Rcvd Bytes</arg><arg
id="7">0</arg></args></log-msg>
```

UserInterface.log

```
<log-msg><time>Thu, 07 Apr 2005 19:05:03  
GMT</time><facility></facility><msg-id>LButtonDown</msg-id><args><arg  
id="0">exit</arg><arg id="1">0000</arg></args></log-msg>
```

```
<log-msg><time>Thu, 07 Apr 2005 19:05:03  
GMT</time><facility></facility><msg-id>LButtonUp</msg-id><args><arg  
id="0">exit</arg><arg id="1">006c</arg></args></log-msg>
```



(注) PMC CLI コマンド オプションの使用法の詳細については、『[Cisco IPICS PMC Command Line Interface, Release 2.1\(1\)](#)』を参照してください。

関連項目

- [PMC アプリケーションの管理およびアップグレード \(P.2-19\)](#)
- [オプションの設定メニューの使用法 \(P.5-19\)](#)

その他の情報

- [Cisco IPICS Server Administration Guide, Release 2.1\(1\)](#)
- [Cisco IPICS PMC Command Line Interface, Release 2.1\(1\)](#)